

BJTビジネス日本語能力テストの特徴と認知度

Characteristics and Recognition of the Business Japanese Proficiency Test

国際・教養教育センター

大平真紀子

OHIRA, Makiko

Center for International and Liberal Arts Education

要旨：本稿は、近年注目が増しているBJTビジネス日本語能力テストの特徴を明らかにし、BJTが日本の大学に在籍している外国人留学生にどのぐらい認知されているかについて調査した。その結果、大学に在籍している外国人留学生は7割程度BJTについて知っていたが、学年ごとの差異が大きく、3・4年生は100%知っていたのに対し、1年生では37%しか知らなかった。BJT受験経験については5%以下で、受けていない理由としてはまだ自分の日本語レベルが低いからという回答が最も多かった。この調査から、日本の大学に在籍している外国人留学生は、就職活動を意識し始める3年生でBJTへの関心を持ち、受験しようとする傾向にあることがわかる。

Abstract：This paper clarified the characteristics of the BJT Business Japanese Proficiency Test, which has been attracting attention in recent years, and investigated how much international students in Japanese university recognized BJT. As a result, about 70% of the international students enrolled in the university knew about BJT, but there was a big difference between grades, and while 3rd-year and 4th-year students knew 100%, only 37% of the 1st-year students knew about it. I did not know. The BJT exam experience was less than 5%, and the most common reason for not taking the exam was that they thought their Japanese level was still low. From this survey, it can be seen that international students enrolled in Japanese university are interested in BJT and tend to take the examination as 3rd-year who are beginning to be aware of job hunting.

キーワード：BJTビジネス日本語能力テスト、外国人留学生、認知度、日本就職

1. はじめに

出入国在留管理庁により令和元年（2019年）5月に策定、令和2年（2020年）2月に改定された「留学生の就職支援に係る「特定活動」（本邦大学卒業者）についてのガイドライン」において、本邦の大学を卒業または大学院の課程を修了し、学位を授与された人で高い日本語能力を有する人に在留資格「特定活動」（本邦大学卒業者）による入国・在留が認められることになった。

この「高い日本語能力」の要件として、日本語能力試験（以下、JLPT）N1（旧試験の1級含む）またはBJTビジネス日本語能力テスト（以下、BJT）480点以上が挙げられている¹⁾。JLPTは、国内外で実施されている第二言語および外国語としての日本語能力評価機能としては最も受験者数が多く、よく知られた試験である。一方、BJTは現状、受験者数はJLPT

に比べると多くないが、2012年に在留資格「高度専門職」のポイント要件に入り、2019年には上記「特定活動」（本邦大学卒業者）の要件に入ったことで、今後ますます注目が高まってくると思われる。

そこで本稿では、まず、BJTの特徴についてJLPTと比較しながら明らかにする。さらに、日本の大学に在籍する外国人留学生のBJTの認知度はどのぐらいあるのかについて明らかにしたい。

2. BJTとJLPTの比較

本節ではBJTの特徴をJLPTと比較して明らかにする。比較の対象は下記の項目である。

- ①試験の目的
- ②実施国
- ③受験料

- ④受験方法
- ⑤受験者数とその推移
- ⑥試験項目と合否判定基準
- ⑦結果通知
- ⑧得点の比較

2.1 試験の目的

両者の試験目的はそれぞれ下記の通りである。

JLPT：原則として日本語を母語としない人を対象に、日本語能力を測定し、認定することを目的としている。

BJT：日本語を母語としない人を対象に、日本のビジネス社会で必要なビジネス・コミュニケーションの能力を測ることを目的としている。

JLPTは日本語の語学力の証明、大学等の入学選抜、就職、昇給・昇格、資格認定への活用等に用いられている。BJTは語学力の証明、特に日本企業の就職活動への活用に応用され、その他、大学等の入学選抜、資格認定への活用等に用いられている。

2.2 実施国

JLPTは2019年実績で国内47都道府県、海外75か国・地域で、BJTは2020年7月現在国内34都市、海外18か国・地域で実施されている。

2.3 受験料

受験料は、日本国内で受験する場合、JLPTは5500円（税込）、BJTは7000円（税込）である。海外で実施する場合はJLPTもBJTも実施地域によって受験料が異なる。

2.4 受験方法

受験の申し込みについては、どちらもインターネット申し込みができるという点では同じであるが、JLPTは日本国際教育支援協会のウェブサイトから申し込みマークシート方式で回答するが、BJTはピアソンVUEという資格試験を請け負う団体を通じて申し込み、そこが運営するテストセンターでCBT方式（Computer Based Testing）で受験する点が大きく異なる。

また、JLPTは7月と12月の年2回の試験が設けられているが、BJTは随時試験が行われている。ただ

し、テストセンターによって試験を行っている曜日、時間、頻度、同一日時の受験可能人数が異なる。

BJTは随時行われているが、テストセンターに空席がない場合は受験できない。1度受験すると3か月空けて受験しなければならないという制限もある。しかし、3か月に1度受験できるため、年間で4回受験のチャンスがあるともとれる。

なお、2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、JLPTの7月試験が中止となった。一方、BJTはテストセンターを閉じたところもあったが、感染症対策をしながら試験を実施しているセンターも見られた。

2.5 受験者数とその推移

JLPTとBJTの過去5年間の受験者数を表1と表2にまとめた。JLPTは2009年から年2回の試験となったが、比較しやすいよう年度ごとにしてある。

JLPTは試験開始当初の1984年、国内外7019人の受験者からスタートし、2019年度には年間延べ110万人を超える人が受験している世界最大規模の日本語の試験である。

表1 JLPTの受験者数と推移（人数）

| | 国内 | 海外 | 総計 |
|--------|---------|---------|-----------|
| 2015年度 | 184,069 | 468,450 | 652,519 |
| 2016年度 | 246,138 | 509,664 | 755,802 |
| 2017年度 | 306,676 | 580,704 | 887,380 |
| 2018年度 | 364,930 | 644,144 | 1,009,074 |
| 2019年度 | 439,085 | 729,450 | 1,168,535 |

BJTは、1996年に開始された試験である。2019年度の受験者数は4758人である。2016年度までは基本的に年に2回、試験が実施されており、2017年度からCBT方式の随時試験となった。そのためか、2016年度に5611人の受験者がいたが、2017年度に3332人に減少している。

表2 BJTの受験者数と推移（人数）

| | 国内 | 海外 | 総計 |
|--------|-------|-------|-------|
| 2015年度 | 2,395 | 3,311 | 5,706 |
| 2016年度 | 2,575 | 3,036 | 5,611 |
| 2017年度 | 1,972 | 1,360 | 3,332 |
| 2018年度 | 2,709 | 1,354 | 4,063 |
| 2019年度 | 3,146 | 1,612 | 4,758 |

2.6 試験項目と合否判定基準

JLPTの試験項目を表3で示す。JLPTはレベルごとに試験を行い、試験項目の回分類や試験時間が異なる。合否判定基準もレベルごとに異なっており、180点満点中N1は100点以上、N2は90点以上、N3は95点以上、N4は90点、N5は80点以上が合格点となる。さらに、基準点に満たない科目がある場合は総合得点が合格点に達していても不合格となる。

表3 JLPT試験項目

| | | |
|----|-------------------|-------|
| N1 | 言語知識（文字・語彙・文法）・読解 | 110 分 |
| | 聴解 | 60 分 |
| N2 | 言語知識（文字・語彙・文法）・読解 | 105 分 |
| | 聴解 | 50 分 |
| N3 | 言語知識（文字・語彙） | 30 分 |
| | 言語知識（文法）・読解 | 70 分 |
| | 聴解 | 40 分 |
| N4 | 言語知識（文字・語彙） | 30 分 |
| | 言語知識（文法）・読解 | 60 分 |
| | 聴解 | 35 分 |
| N5 | 言語知識（文字・語彙） | 25 分 |
| | 言語知識（文法）・読解 | 50 分 |
| | 聴解 | 30 分 |

BJTは結果が合格・不合格ではなく、0～800点の点数（スコア）と点数に応じたJ5～J1+²⁾の6段階のレベルで評価される。

表4 BJT試験項目

| | |
|--------|------|
| 聴解テスト | 45 分 |
| 聴読解テスト | 30 分 |
| 読解テスト | 30 分 |

BJTレベルは表5の通りである。

表5 BJT レベル

| | |
|-----------|-----|
| 600～800 点 | J1+ |
| 530～599 点 | J1 |
| 420～529 点 | J2 |
| 320～419 点 | J3 |
| 200～319 点 | J4 |
| 0～199 点 | J5 |

表6でBJTの最高点・最低点・平均点を比較した。これを見ると、2016年度までは最高点が満点の800点を初め高得点が出ていたが、2017年度のCBT方式導入以降、最高点は740点程度に留まっている。最低点

と平均点は、2019年度の平均点が下がってはいるが、その他の年ではそれほど差がないため、CBT方式導入による影響ではないかと思われる。

表6 BJTの最高点・最低点・平均点

| | 最高点 | 最低点 | 平均点 | 受験者数 |
|----------|-----|-----|-------|-------|
| 2015 年度① | 800 | 189 | 462.5 | 2,685 |
| 2015 年度② | 778 | 151 | 469.5 | 3,021 |
| 2016 年度① | 768 | 133 | 462.5 | 2,527 |
| 2016 年度② | 800 | 142 | 461.4 | 3,084 |
| 2017 年度 | 736 | 143 | 460.0 | 3,332 |
| 2018 年度 | 740 | 144 | 460.5 | 4,063 |
| 2019 年度 | 740 | 138 | 443.3 | 4,758 |

2.7 結果通知

JLPTについては、日本国内受験者でインターネット申込者は、試験後約1か月半でインターネット経由で結果速報が見られる。試験後約2か月後に、合否結果通知書が郵送され、合格者には日本語能力認定書が送られる。

BJTは受験後すぐにテストセンターでスコアレポートが受け取れ、3日後には成績認定書が印刷できる。

2.8 得点の比較

JLPTとBJTの得点比較はBJTホームページに記述がある。BJTが受験者を対象にしたアンケート調査によると、N2合格者よりN1合格者のほうがBJTにおいても平均スコアが高いことがわかり、一定の相関関係が認められた。その結果が図1である。しかし、N1合格者でもBJTのスコアは300～700点と広く分布しており、これは、ビジネス場面における日本語の運用能力に差があるためであるとしている。

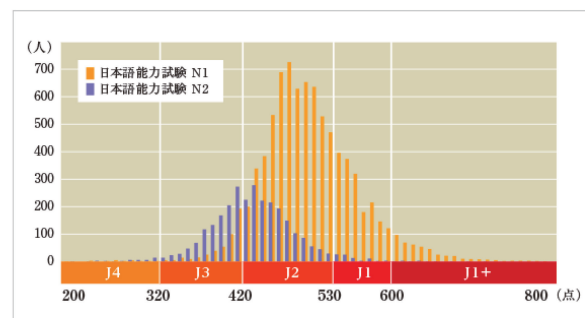


図1 第22～23回のBJT受験者のスコアと日本語能力試験取得級との関係
(BJTホームページより引用)

JLPTとBJTの得点の対応については、BJT300点以

上でN5以上、400点以上でN2と同等、480点でN1と同等とされている。

表7 BJTとJLPTのレベル対応

| BJT | JLPT |
|--------|------|
| 480点以上 | N1 |
| 400点以上 | N2 |
| 300点以上 | N5以上 |

3. 調査概要と調査の目的

BJTは入国管理上の優遇要件になって重要性を増したり、受験機会が多いことや結果が即日発行される点などから、今後活用が広がっていくと思われるが、それでは、現在大学に在籍している外国人留学生はどのぐらいBJTのことを知っているのだろうか。あるいは、どのぐらい重要に関しているのだろうか。

BJTはどういった人に認知されているのか、BJTを知った手段等について明らかにした上で、外国人留学生のBJTの認知度とその理由について考察したい。

調査対象者は日本の大学に在籍している外国人留学生で、調査期間は2020年11月～2020年12月、インターネット上のアンケートフォームに回答してもらった。

質問項目は、1) BJTという試験を聞いたことがあるかどうか、2) BJTをどのように知ったか、3) これまでにBJTを受験したことがあるかどうか、4) どうしてBJTを受験したのか、5) (BJTを受験したことがない人に対して) どうして受験しなかったのか、6) これから受験しようと思っているかどうか、7) (受験しようと思っている人に対して) どうしてBJTを受験しようと思っているか、8) (受験しようと思っていない人に対して) どうして受験しないのか、である。

4. 調査結果

4.1 回答者の属性

回答は130件回収し、その中で有効回答数は116件であった。内訳は、1年生46人、2年生14人、3年生54人、4年生2人の計116人である。

4.2 BJTの認知度

BJTという試験について知っているかどうかという質問に対して、知っていると回答したのは81人(69.8%)であったのに対し、知らないと回答したのは35人(30.2%)と、知っていると回答した人のほうが

倍以上多かった。

表8 BJTの認知度

| 知っている | 知らない | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 81人 | 35人 | 116人 |
| 69.8% | 30.2% | 100.0% |

しかし、これを学年ごとに見てみると違いがはっきりする(図2)。4年生、3年生が全員BJTについて知っているのに対し、2年生では知っている人が57.1%、1年生が37.0%と、学年が下がるごとに認知度が下がる。1年生ではBJTを知らない人のほうが多かった。

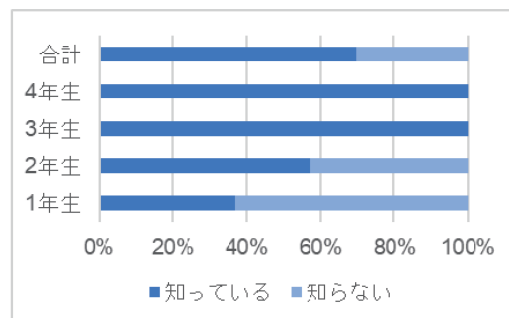


図2 学年ごとのBJT認知度の割合

4.3 BJTを知った手段

BJTを知った手段としては、先生から聞いたと回答した人が最も多く、62人(76.5%)、次いで友達から聞いたという人が12人(14.8%)、自分で調べたという人が6人(7.4%)となっている。アルバイト先で知ったという人はいなかった。

表9 BJTを知った手段

| 先生 | バイト | 友達 | 自分で | その他 | 合計 |
|-------|------|-------|------|------|--------|
| 62人 | 0人 | 12人 | 6人 | 1人 | 81人 |
| 76.5% | 0.0% | 14.8% | 7.4% | 1.2% | 100.0% |

4.4 BJTの受験経験とその理由

BJTを受けたことがあるかという質問に対しては、受けたことがないと答えた人が77人(95.1%)で、圧倒的に多かった。受けたことがあると答えた4人のうち、3人が3年生、1人が1年生であった。

表10 BJTの受験経験

| ある | ない | 合計 |
|------|-------|--------|
| 4人 | 77人 | 81人 |
| 4.9% | 95.1% | 100.0% |

BJTを受けたことがある人に対し、どうしてBJTを

受験したかについて尋ねた。選択肢は就職のため、日本語レベル測定のため、入学試験のため、奨学金申請のため、その他を設け、複数回答可とした。結果、就職のため、日本語レベルの測定のためという回答がそれぞれ2人と3人であった。

表11 BJTを受けた理由（複数回答可）

| 就職 | 日本語レベル | 入学試験 | 奨学金 |
|----|--------|------|-----|
| 2人 | 3人 | 0人 | 0人 |

一方、BJTを受けていない理由としては、最も多かったのが「まだ自分の日本語のレベルが低いから」が55人、「受験料が高いから」と「試験の日程が自分の予定を合わないから」がそれぞれ13人、「面倒だから」が7人、その他が5人という結果になった。この結果から、学生たちは自分の日本語レベルに不安があることのほかに、受験料や試験日程が合わないことで試験を躊躇している様子が窺える。

表12 BJTを受けていない理由（複数回答可）

| 受験料 | 日本語レベル | 面倒 | 日程 | その他 |
|-----|--------|----|-----|-----|
| 13人 | 55人 | 7人 | 13人 | 5人 |

BJTを受験したことがない77人に、今後BJTを受験しようと思っているかどうか尋ねたところ、66人(85.7%)が受験希望があると回答した。

表13 今後のBJT受験希望

| ある | ない | 合計 |
|-------|-------|--------|
| 66人 | 11人 | 77人 |
| 85.7% | 14.3% | 100.0% |

今後BJTを受験しようと思っている66人に、その受験理由を複数回答可として聞いた。最も回答が多かったのは就職のためで、その次が日本語レベルの測定のためで、この二つが理由の大半を占めていた。

表14 BJTを受験しようと思う理由（複数回答可）

| 就職 | 日本語レベル | 入学試験 | 奨学金 |
|-----|--------|------|-----|
| 59人 | 41人 | 4人 | 11人 |

今後もBJTを受験しようと思わない11人に、その理由を尋ねたところ、自分の日本語レベルが低いからという回答が最も多かった。

表15 BJTを受験しようと思わない理由（複数回答可）

| 受験料 | 日本語レベル | 面倒 | 日程 |
|-----|--------|----|----|
| 2人 | 5人 | 2人 | 2人 |

5. 考察

現状、大学1～2年生のBJTに対する認知度は高くなく、1年生ではBJTを知っている人が37.0%にとどまった。これは、BJTがビジネス・コミュニケーション能力を測る試験であるため、まだ卒業後の進路が明確でない大学1～2年生にとっては意識に留まらない試験であることが考えられる。加えて、BJTを知った手段が先生を通してである割合が最も高いことから、教員側も1～2年生に対して告知していない可能性もある。

大学3年生以上になるとBJTの認知度は100%になるが、受験経験者の割合は5%程度である。BJTを受験していない理由として最も多かったのが「まだ自分の日本語能力が低いから」ということから、将来受けたいと思っても準備不足で受験をためらっていることがうかがえる。しかし今後BJTを受けたいと考える人は85.7%と高く、その理由は就職のためという回答が最も多い。就職活動を意識するところになると認知度が高くなっていることが明らかになった。

産業経済省（2007）の報告書では、日本の企業が外国人留学生に求めるものの一つとして、ビジネス日本語能力の向上を挙げている（p.21, p.36）。日本企業への就職を考えている外国人留学生にとって、在学中にビジネス日本語能力を向上させることは重要になってきている。BJTはビジネス日本語能力の証明として有効であろう。さらに、日本での就職を目的としてBJTを受験するのであれば進路が定まってきて就職活動を開始する前の大学3年生で受験することが望ましいのではないだろうか。

6. おわりに

BJTは2012年に在留資格「高度専門職」のポイント要件となったこと、2019年に在留資格「特定活動」（本邦大学卒業者）の要件に入ったこと、受験機会の多さと自由度などから、日本や日系企業で就職を考える外国人留学生の受験は増えていくと思われる。

外国人留学生は就職活動においてBJTが有用であると考えている傾向が見られたが、一方、日本企業側

のBJTに対する認知度はまだ高くないと思われる。実際、就職活動の際に面接官にBJTの点数を告げたところ、面接官はJLPTは知っていたものの、BJTについては知らず、説明をしなければならなかったという外国人留学生の言を得られた。今後はBJTについての日本企業への周知も必要であろう。

(2021年1月5日最終閲覧)

(注1) 日本語能力の要件として、本文中の要件に加え、大学または大学院において「日本語」を専攻して大学を卒業した人も同様に扱うことになっている。

(注2) J1+が高レベル。

参考文献

経済産業省 (2007) 「平成18年度 構造変化に対応した雇用システムに関する調査研究 (日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究)」

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/281883/www.meti.go.jp/press/20070514001/gaikokujinryugakusei-hontai.pdf>

(2021年2月8日最終閲覧)

出入国在留管理庁「高度人材ポイント制の加点対象となる日本語能力一覧」

<http://www.moj.go.jp/isa/content/930001656.pdf>

(2021年1月5日最終閲覧)

出入国在留管理庁「留学生の就職支援に係る「特定活動」(本邦大学卒業者)についてのガイドライン」

http://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/nyuukokukanri07_00038.html

(2021年1月5日最終閲覧)

独立行政法人日本学生支援機構 (2019)

「平成29年度 私費外国人留学生生活実態調査」

https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/10/seikatsu2017.pdf

(2021年2月8日最終閲覧)

日本語能力試験ホームページ

<https://www.jlpt.jp/index.html>

(2021年1月5日最終閲覧)

BJTビジネス日本語テストホームページ

<https://www.kanken.or.jp/bjt/>

(2021年1月5日最終閲覧)

文化庁 (2019) 「平成30年度日本語教育総合調査～日本語の能力評価の仕組みについて～」

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_sogo/